

# 登山月報



ジョンサン・ピーク(7,483m)



**8月11日** みんなで山を考えよう!  
 祝「山の日」  
 全国「山の日」協議会  
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.592

ボルダリングワールドカップ2018 八王子	2
第116回 Mountain World	4
<b>新連載</b> 『日山協と私』	5
平成30年度 全国指導委員長会議兼研修会報告	7
2018 U A A A 理事会報告	9
平成30年度定時総会報告	11
第2回理事会報告	12
平成29年(2017年)度 収支決算報告	12
表紙のことば、編集後記	14

# ボルダリングワールドカップ2018 八王子

会場：エスフォルタアリーナ八王子

2018年6月2日（土）－3日（日）

選手：159人（男子91、女子68）、27ヶ国

来場：6月2日1140人、6月3日2453人

大会が終わって10日が過ぎ、クライミングではないがサッカーの世界カップが始まった。過去20回と違う大きなルール変更があった。ビデオ判定、各チームの電子機器（タブレット）を使っただけの分析。リアルタイムのデータ分析がベンチの采配にどう影響するか楽しみだ。クライミングも2018シーズンよりルール改正があった。その中でコールゾーンでのリザルト掲示が選手のパフォーマンスにどう影響するのか？ 楽しみとなった。

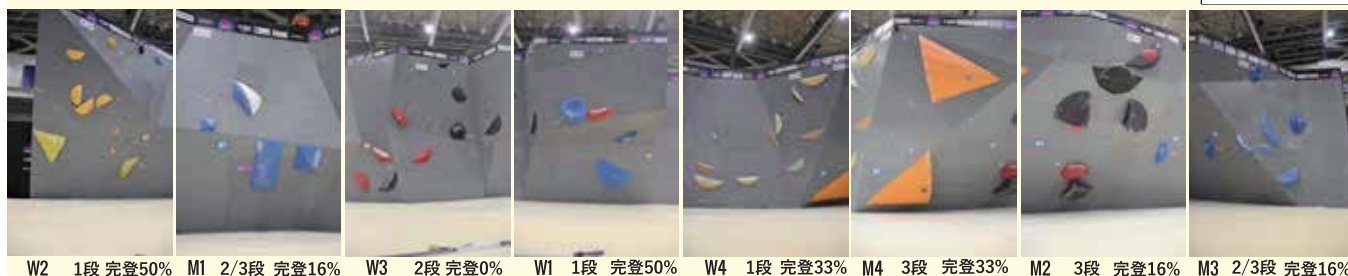
するが完登のトライ数差1が運命を分ける。1課題目のダイノが連続するムーブを1トライでこなした野口が、第4課題でも確実な登りを見せ逃げ切った。

エカテリーナ（R U S）も最終課題まで2人を追従するがスラブ系のバランスを要する課題が苦手なのか手が出せず3位に終わる。もっとも野口もスラブ系は苦手な感じがしていたが、今回の最終課題の登りは完璧だった。野口のパフォーマンスは登りだけでなくゲートから課題に向かう姿勢やしぐさは女王の貫録を醸し出し、まさに武道の所作のように美しく感じるほどだ。（QRコードよりご覧いただけます）



野口選手  
第4課題

## 決勝ルート



八王子でのボルダリングワールドカップは、今回で2年連続の開催。昨年以上の出来栄えを目指し、すべてのステークホルダー（選手、観客、主催、スポンサー、メディア）が満足することに拘って取り組んだ。そして今回は、NHK、BS1で生放送がされた。年々高まる注目の高さに運営面でも大きな変化を感じている。

## 【女子】

女子は、野口が優勝、野中が準優勝。ともに3完登

Rank	MANE		Nation	課題1	課題2	課題3	課題4	Sum
1	NOGUCHI	Akiyo	JPN	1/1	3/3		1/1	3T3z55
2	NONAKA	Miho	JPN	2/2	3/3		1/1	3T3z66
3	KIPRIANOVA	Ekaterina	RUS	2/2	4/3			2T2z65
4	GEJO	Stasa	SRB	/4			/1	0T2z05
5	BESTVSTER	Aima	GER		/3		/3	0T2z06
6	ITO	Futaba	JPN	/9				0T1z09



## 【男子】

男子は、1課題目のスラブをガブリエル（ITA）が2トライで完登。2課題目は、この壁で最も被った傾斜にボリュームを手を広げたぐらいに配置した超ワイドなクラック状の課題。これは、チョン（KOR）が2トライで完登。3課題目は、被った壁のトラバースからスラブの課題。最初の杉本が4トライで完登する。他の選手はなかなか下部のムーブが解決できず。ここまで、各課題1人は完登するが、他の選手が苦戦

Rank	MANE		Nation	課題1	課題2	課題3	課題4	Sum
1	MORONI	Gabriele	ITA	2/2	/1	/2	1/1	2T4z36
2	NARASAKI	Tomoa	JPN		/2	/3	1/1	1T3z16
3	SUGIMOTO	Rei	JPN		/1	4/2	/5	1T3z48
4	CHON	Jongwon	KOR	/4	2/2			1T2z26
5	RUBTSOV	Aleksei	RUS		/1	/3		0T2z04
6	HARADA	Kai	JPN		/8			0T1z08



するという流れが続く。ガブリエル、チョン、杉本のいずれかが優勝かと思える雰囲気でのなか第4課題に入る。第4課題は、一辺が背丈ほどの三角形のハリボテが下部と上部に設置された課題。各選手ゾーンをとれない状況が続くが今まで0完の植崎が1トライで完登し一気に優勝争いに躍り出る。そしてそれをさらに上回るドラマがまっていた。最後の選手ガブリエルが難なく下部を突破し1トライ完登、優勝を決める。最後の数手は、一手ごとに歓声が高まり、今までにない盛り上がりにも包まれた。

ワールドカップ参戦14年目にしての優勝。拍手を送りたい。(QRコードよりご覧いただけます)



ガブリエル選手  
第4課題

**【運営】**

今回、各方面より非常に良い大会であったというお言葉を頂きました。準備期間が短く5月27日の21:00から夜通しの作業となり壁の設置は30時間、ルートセットは3日半と厳しい状況下のスタートだった。改めてBWC2018 八王子大会が無事終了できたことについて、この大会に関係した選手、スタッフ、ボランティア、スポンサー、協力関係機関の方にお礼を申し上げたいと思います。

運営に関しては、福井国体のリハーサル大会(第5回日本学生スポーツクライミング対校選手権大会)が同日開催され、スタッフが分かれ運営面への影響が懸念されたが、大きな問題なく順調に開催できた。昨年より東京でBJC、BWCの大会を連続で行ってきたことが、スタッフの育成につながり成果として現れてきたと感じる。

今回、指定席の導入、テレビ生放送対応、サブアリーナでの物販対応など競技を見せる、楽しめる大会を目指した。競技においてもルートセット時と観戦時の環境を同じにするため温度(20℃)管理を徹底した。また、安全面では金属探知機による入場管理を実施。消防、警察の指導も来年の世界選手権を意識したものとなった。

ただ、細かな点ではいくつか問題も見られた。

- ・IDコントロールの不備(選手動線など入ってはいけないところへの関係者以外の入場)
- ・協賛メリットの確保と管理(施設協賛露出、物販エリアの露出)
- ・会場レイアウト、メディア管理の調整(消防条例の

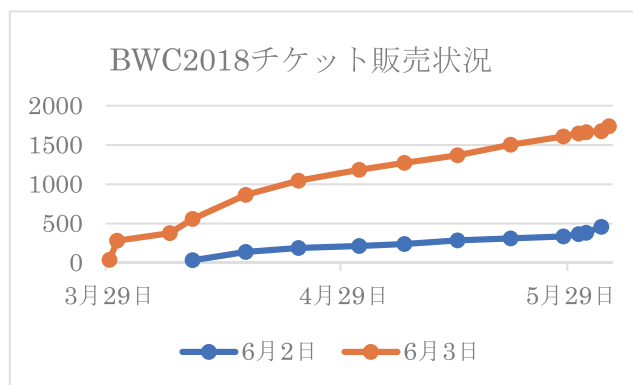


避難動線の確保)

など各方面より、いろいろ意見も頂いている。来年の世界選手権に向けて改善していきたいと考えます。

**【参考】各種データ**

- ★選手：159人(男子91、女子68)、27ヶ国(AUS, AUT, BEL, CAN, CHN, DEN, FRA, GBR, HKG, ISR, ITA, JPN, KOR, LAT, NOR, NED, NZL, POL, RUS, SGP, SRB, SLO, SUI, SWE, TPE, UKR, USA)
- ★運営スタッフ数：261人(市ボランティア含む)
- ★チケット販売状況



\*指定席：前売り4,500円 発売3週間で完売

★来場数

	6月2日	6月3日
観戦	1,069人(*71人)	2,340人(*211人)
車椅子1人		車椅子1人

\*高校生以下：2017年のおよそ2倍の入場

メディア	71人	113人
------	-----	------

★Live 観戦

24h	8,209人	13,509人
72h	23,000人	120,000人

★露出

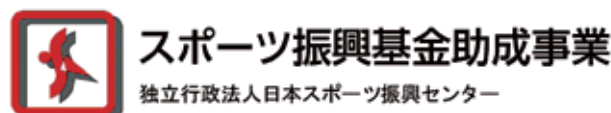
新聞	24社
Web	52社
TV	17番組(37分41秒)

★大会運営イメージ映像

(QRコードよりご覧いただけます)



(実行委員長 村岡正己)



## ルプガール・サール西壁単独登攀

池田常道

ルプガール・サールはカラコルム、ヒスパー山塊の西端、フンザ川に向けて落ち込むあたりにそびえる7000m峰で、北面にルプガール・ヤズ、南面にガレサの両氷河を落としている。台形をした頂稜に約7200mの頂を3つ連ねるこの山は1979年6月、ヨハン・グロックナー隊長の西ドイツ隊によって西峰(7181m)が、ガレサ氷河から南西稜経由で初登頂された。その2か月後には土肥正勝隊長の法政大学隊が同じルートから、西峰を越えて中央峰に達した。

87年にはスペイン隊がカラコルム・ハイウェイに面したバルトバル谷をさぐって、高距1000mに及ぶ西壁が登攀対象として魅力があるという情報をもたらした。クラシックな初登頂を目的とした時代を除けばルプガール・サールに関する情報は少なく、わずかに2000年ごろ、フランス隊がこの周辺で活動したことが知られているだけだった。

2013年にクンヤン・チッシュ東峰(7400m)に兄のマティアス、スイスのジーモン・アンタマッテンと3人で初登頂したオーストリアのハンスイェルク・アウアー(34)は、他のカラコルム地域と異なって遠征隊の影が薄いこの周辺が気に入り、再び訪れる機会をさぐっていたが、この6月から7月にかけて西峰西壁の単独登攀を敢行して成功を取めた。

\*

以下は、彼がネット上に公開した登攀速報からの抜粋である。

数名のポーターとコックを雇っただけで4500m地点にBCを設けたアウアーは、南西稜を6000m地点まで3日間かけて往復し、高所順応を図った。BCに戻って西壁へのアプローチを確かめ、数日の悪天候が去ったあとに訪れると予報された好天の窓をとらえて7月6日にBCを出発した。

登攀初日は西壁の基部に見つけた格好のビバークサイト(6200m)まで7時間半で登り着いた。翌朝5時に出発し、西壁の左寄りにラインを採って北西稜に抜けた。部分的に岩の脆い箇所がある急峻な稜線をたどって頂上に着いたのは11時半だった。突然の悪天候に見舞われた場合に備えて、ビバーク装備一式は稜

線まで携行したが、それは杞憂に終わった。頂上まで最後の標高差200mはさして難しくないミックス登攀だったが、7000mの高度でフリーソロするのは、それなりの緊張感を伴うものだった。とりわけ、頂上を構成する雪庇までは風下側をたどっていたので、緊張感から解放されることはなかった。

記念として数個の石をポケットに入れて下りはじめるが、疲労に加えて天候悪化の兆しも見え、容易な斜面でも気を抜くわけには行かなかった。

下降に際しては、本来なら懸垂下降で行けるところでもクラムダウンを選んだ。それは、手持ちのロープが5mm×60mしかなかったので、いちいちVスレッドでアンカーを作ってはロープを回収する手間を惜しんだ結果だった。懸垂下降したくなるような蒼氷のセクションも出てきたが、なんとか慎重に乗り切ることができた。

BCに帰ったときはその夜8時になっていた。

\*

ハンスイェルク・アウアーは1984年生まれ。エッツタールのガイドをしており、地元の山々を舞台に冬季登攀やソロを多数記録している。

遠征登攀では2006年にバルトロ氷河のシプトン・スパイアー(5700m)で「ウーマン・アンド・チョコレート」第2登。リトル・シプトン(5400m)初登頂。

2010年にはパタゴニアのパイネ中央岩塔に新ルートを開拓。

2013年ヒスパー山塊のクンヤン・チッシュ東峰(7400m)初登頂。

2015年ネパールのニルギリ南峰(6839m)を初登攀するが、メンバーのひとりゲアハルト・フィーグルが下山中に高度障害で死亡。

2016年にはネパールのトゥインズ東峰((ギンミゲラチュリII、7005m)北壁を初登攀。



ルプガール・サール西面



新連載 ～創立60周年に向けて～(2)

# 『日山協と私』

群馬県山岳連盟 太田 忠行

国体山岳競技に関わって

私は日山協創立50周年記念誌として刊行された『日山協50年史』に「国体山岳競技概史」や「国体山岳競技年表」を著し、別冊で『国体山岳競技の歴史』を編集した。当時、国体委員会に所属し、長年山岳競技に携わってきたので、古い事情を知っているのは私きりいないのだからと、事務局員の中川裕君から「今、まとめておかなければいずれ忘れられてしまう。太田さんがやらなくて誰がやる」と促されたことに始まる。

2020年には創立60年を迎えるという。編集子から与えられた紙数を超えてしまうがお許し願ひ、私の心に残る記憶の一端を述べてみたい。

私が日山協と関わりをもつようになったのは、昭和58(1983)年に群馬県で開催された赤城国体の準備を始めたころだから、その数年前ということになる。当時は山の中での競技であった。県内の開催場所を何処にするか探査を始めていたころで、競技規則に合致する場所を探すため、日山協国体委員長の瀧島清さんにいろいろ教えを受けながら群馬岳連で国体部長を務めていた。瀧島さんは日山協で中心になって何も無いところから国体山岳競技の規則を作った人である。

私はこれより前、昭和45(1970)年の岩手国体に群馬岳連の監督として参加し、昭和48(1973)年開催の千葉国体では、後に国体委員長となる千葉岳連の島村光昭さんと技術委員としてA隊のSLを務め、昭和53(1978)年開催の長野国体ではA4隊・縦走競技の主任を、昭和55(1980)年開催の栃木国体で踏査競技の副主任を務めた。このように千葉での踏査競技の試行から長野国体の三種目・四種別競技での準備、正式競技となった栃木国体における得点の評価方法など過度期にさまざまな経験を積み勉強することができた。千葉国体では、後に日山協会長になられた坂口三郎さんが技術委員長を務められ、瀧島さんは中央総務委員を務めていた。私は国体での役員は初めてのことで、右も左も分からなかったが、坂口技術委員長以下役員、同僚の皆さんの指導を受け、助けられて良い経験をした。

国体委員会に顔を出すようになったのは、私が東京に転勤になった昭和56(1981)年に瀧島さんの要請を受けたからである。その後、東京から地方に転勤になると国体から離れ、東京に戻るとまた顔を出すとい

う繰り返しが何度かあった。そして最初に気づいたことは、国体に監督として参加する人たちの中には監督というよりも物見遊山気分で参加する人がいるのではないかと感じたことである。監督が頻繁に代わる県もあり、開催時には毎年同じような質問が繰り返される。規則や実施要項・要領を良く理解しない人もいたと思う。そのようなことから判例集と同じように、国体開催二巡目以降の京都国体から開催時における質問や審判長の回答をまとめ「国体山岳競技質疑回答集」を作って配付した。第1版が平成3年2月発行、平成5年2月の第3版まで発行して地方に転勤になり、しばらく中断。東京に戻った平成12年4月に第4版(52ページ)を発行した。

平成3年1月に「文書取扱細則」と「備品取扱細則」を作って大会終了後の報告書などの保存期間を規定しておいたが、残念ながらこれが機能せず、この間の資料は当時の原一平委員長、柴山勝士、新堀昇、両常任委員から借用してまとめた。今、これを見直すと、競技会前の質疑から競技中、競技後の抗議、他チームへの干渉と抗議、衆を頼んだ連名での抗議、公開抗議などとエスカレートしていった状況が手に取るように分かる。

質疑回答集第4版には競技規則を理解するために「現在の山岳競技は“何が山に必要なか”ではなく、“何が客観的に評価でき、競技として成り立つか”を基本に組み立てられている。競技は、選手、監督側の考え方や要請と、審判団、運営する役員側との調整の上に成り立つ。両者とも規則に欠缺があるというが、競技内容が常に流動的に推移する以上、規則に完璧を求めることは困難である。その



国体山岳競技質疑回答集書影

ため、実施要項や要領、追加変更事項等の規定を設け、競技会開催前に関係者に通知し周知徹底を図っている。……競技に参加する側も、競技を運営する側も、決して傲ることなく、このことを謙虚に受け止め、山岳競技の発展に寄与努力していただきたい。」と述べたが、いろんな出来事があった。

例えば、踏査競技は地元が有利な競技といわれる。費用も掛けず本番までに何回でも会場地に入って、探査・調査ができるからである。国体開催地は競技場の

詳細な測量を行い、膨大な費用と手間をかけて整備をする。ところがこの踏査競技はやがて廃止されることが決まっていた。

ある年、国体開催地の監督・選手が、競技会終了後、定点の正解位置が違う、ミスジャッジだと主張して選手・監督が所属する岳連の常任理事あてに上申書を提出し再調査を要求した。

要求が通らないと知って今度はこれを全国の岳連に発信してアピールした。「…選手団を支えてくれるはずの〇〇県山岳連盟に見放された今、私達〇〇県選手団は以降の国体出場はおろか、日本山岳協会から追放されるのを覚悟の上で、マスコミに協力していただくなど、本件の徹底究明のアクションを起こして行く所存でございます…」と。選手の所属する岳連は「これは当岳連の関知しない文書である」と全国に通知し、日山協に対しては再調査方、改革その他の要望書を提出した。日山協では小委員会を設け、当該競技会の審判長以下7名で協議し結論を出した。規則には再審、非常上告などの規定はなく再調査はしない、成績発表の方法などを改めるということで当該岳連に通知した。

また、ある国体踏査競技会では、成績発表後、参加チームの半数以上が抗議をし、夜中の午前2時ころまでかかって就寝中の選手の部屋を訪れて説明にまわり、結果発表が翌日になった。新聞は酷評。某岳連会長からは国体終了後に、主任審判員の言動に抗議があり、踏査競技の衰退を伺わせるような一幕もあった。



山岳競技会は多くのボランティアを必要とした

変わったところでは、国体選手選考会でクライミング競技に参加した選手が一人きりなのに、その本人には「あとで連絡する」と言ったきりで何の連絡もせず、選手選考会に出場していない別の選手を国体選手に決めていた。で、本人は地方裁判所に国体に参加させるよう地位保全の訴えを起し、日山協に本人から選手選考規程の問合せがあった。日山協では、国体本大会に

出場させる選手の選抜方法や人選等は全て当該都道府県岳連の決定事項である旨、専務理事名で回答したところ、本人は訴えを取下げ、当該岳連は落ち度を認めて国体選手の出場を辞退した。このような事例は挙げればきりが無い。



選手入場を見守る日山協役員

国体山岳競技はさまざまな批判にさらされていた。「国体山岳競技の無意味と無駄遣い」(岳人99年3月号)では、「湯水のごとく金を使って山岳自然を破壊しておきながら、競技自体が山とかけ離れたものになっている」「視察と称して公費で大名旅行をする役員もいる。蔭で国体屋と呼ばれている」「意味のない国体など今年からやめてはどうなのか」等々。

私はできるだけ表面にでなくて蔭で力になろうと務めてきた。それでも何回かは国体に参加している。競技に関係する者は規則・基準を理解し瞬時に的確な判断が下せるよう努めなければならないのに、残念ながら国体屋と呼ばれるような人もみられたのは事実である。開催地岳連と開催地の行政関係者の苦労は並大抵のものではない。国体屋と呼ばれないように努めていても、何回も参加していれば端から見て国体屋に見えるのだろう。

批判されているように山岳競技は登山からかけ離れたものになってしまった。が、クライミング1本に絞られたことで、より競技性の高いものになった。

オリンピック種目にも取り入れられる。ところが、出場する選手の質が変わり、選手の無法振りや礼儀をわきまえない態度が指摘されるようになった。競技役員が開催地の首長から指摘を受けたこともある。さらに、年齢を詐称して競技会に出場する選手まで現れた。今こそ、競技に従事する役員も選手諸君もより一層謙虚な姿勢で臨み、社会からはみ出さず、名実ともに認知される競技に発展させてほしいと願うものである。

# 平成30年度 全国指導委員長会議兼研修会報告

6月2日(土)～3日(日)に表記会議・研修会が開催され、37都道府県 54人の参加があった。

会議に先立ち、亀山健太郎副会長から「日山協は日本山岳・スポーツクライミング協会と名称が変わりました。オリンピックも大事ですが日山協は60周年を控え登山も大事です。若い方の組織離れ、高齢化で効率の良い運営ができないことや営業組織を通じて安全登山の啓蒙は大事であり日山協、都道府県の皆様の活動にかかってきている。日山協の財政は共済会で運営されているが実質的な事業では予算面で厳しい。夏山リーダーの企画にも新しいビジネスモデルとしても、安全登山の為に、期待している。2日間情報交換をお願いしたい。」と挨拶された。

続いて蛭田伸一指導委員長から「指導委員長を1年やりましたが、常務理事という立場でもあり、会議が多い状況です。他の委員会は1つですが、指導委員会は山岳とスポーツクライミングの両面で運営しなければならない。スポーツクライミングのことをもっと勉強して各地でも山岳とスポーツクライミングが協力して理解を深めていただき、指導委員会として対応していただきたい。やっと夏山リーダーの開催が見えてきました。栃木の雪崩遭難事故を機にスポーツ庁から都道府県山岳連盟(協会)から講師協力をいただき安全登山講習会の開催を言われている。予算化も可能なので、取り組んでいただきたい。」と挨拶。

## 【研修会】

\*平成30年度指導委員会の担当紹介があった。

・スポーツ指導者制度の、競技別指導者資格の資格区分改定案について

\*4月から日本体育協会が略称J S P Oと変わった。

\*スタートコーチの新設、指導員・コーチの名称がコーチに統一される。

今年の12月にオフィシャルブックを改定し来年の4月からスタートする。上級指導員はコーチⅡとして専門科目が倍の40時間になるが、自宅学習を合わせた時間とする。飛び級は継続する。今の指導員制度でそのまま名称が変わる。

指導員養成も運営が大変で開催が難しいので簡素化も検討いただきたいとの意見があった。

ブロック内で合同で実施している現状もある。

・平成31年度版検定基準について

\*アルパインクライミング：まずは区分から決めてい



集合写真

く必要があることとカリキュラムの内容の検討がされた。個人会員でも都道府県で認めれば指導員資格を受けられる。来年の春までに検定基準を改定予定。

\*スポーツクライミング：指導者責任が問われる(人間力が重視されている)

(岳連所属については岳連に入っていることは前提)

(フリークライミング協会加入等)

取りに来るメリットは無いのでは? との意見に、資格があるのに取らないことがいずれ問題になるのでは。(少しずつ進めて行きたい)

登る技量は問わないが、説明はできなくてはいけないと思う。ロープクライミングとボルダリングは括って、クライミングとしてまとめたい。

\*国体監督資格及びスポーツクライミング指導者育成について

現在はA C、S C両方の指導員の資格が国体の監督として認められているのは日山協の中での決め事。やはりスポーツクライミングでの指導員の資格を取った方が監督をするのが望ましいと考える。何か問題が起こった時も重大な事例となっていく可能性がある。他の協会からも追及を受ける可能性もある。苦しいがやっていかなければならないと考える。最終的にはS C部の部長の判断になると思うが、現状、いつまでも続けるのは無理がある。現役で指導しているS Cの講師には指導員の資格を取るよう進めてもらいたい。

国体の為に監督の資格として指導員を取っている現状がある。(今は岳連の中にジムを取り入れていくのがやりやすいのではと思っている)

## 【研修】

テーマ：U I A A準拠、夏山リーダー資格について

講師：西内博、蛭田伸一

\*公益社団法人として一般登山者も含めての教育していく必要があった。スタートコーチも含めて検討している。(検定が合格すれば専門科目の免除を考えている)

国際的な基準に整合する資格制度としても進めていた。(UIAAの認証も取ろうとしている)

テキストの作成を進めていたがほぼ完成している。挿絵を作成中。8月18日、19日で講師養成講習会を予定している。(神奈川県山岳スポーツセンター)

UIAA基準をシラバスとして分析した。知識(覚える)スキル(実施する)指導と遭対と合同で作成。

千葉県でスタートするがテキスト、パワーポイントが未完成なので、挿絵無しのテキストで実施する。

10名の応募者。内8名は高体連の先生。先生のうち3名はベテラン、他は初心者。

\*講師の研修について資格は指導員以上で考えている(山岳)山歴の限定はしない

大阪で開催している登山インストラクター講習会を夏山リーダー講習会として認定して受講された方を移行できるように検討してほしい。(整合性が取れば認定していく予定です)

#### 【総会報告】

1. 平成29年度指導委員会事業報告、平成30年度指導委員会事業計画について
2. 平成30年度指導者養成講習会開催予定登攀研修会、平成30年度開催県(愛知)  
暮らしの杜クライミングジム(10月27日、28日)と平成31年度の開催県の選定、大阪で検討依頼。
3. 氷雪技術研修会及び主任検定員養成講習会が確認された。
4. 平成30年度全国義務研修会について  
過去3年間の実施が0の都道府県が7カ所ある。  
申請(操作の仕方)が分からなければ日山協に相談。



会議の風景

5. 日山協及びJ S P O表彰について下記のように決定された。

- ・平成30年度J S P O表彰(平成30年12月)  
古屋寿隆(山梨)、小山幹(宮城)、  
山根幸雄(山口)
- ・平成30年度日山協表彰(平成31年1月)  
原秀樹(徳島)、傘木靖(長野)、  
中庭稔(茨城)

6. ブロック別意見交換会では

テーマ: UIAA準拠、夏山リーダー資格と国体監督資格について討論された。

夏山リーダー資格について

- ・大体が行う方向で検討及び持ち帰り検討で、自分の都道府県で現在行っている講習会を認定してほしいという都道府県が10件ほどあった。
- ・8月18, 19日の講師養成講習会にも参加したい意見が多く見られた。
- ・国体監督のスポーツクライミング資格限定について

スポーツクライミング資格保有者は、競技会の手伝いをしない人が多く、山岳資格の人は師弟の関係があるのか、手伝ってくれるので限定すると競技会が成り立たないなどの意見も多少あったが、このままではいつまでもたっても限定できなく、できれば限定したほうが良いことは皆わかっているのでは、何年と決めて限定しようという意見にまとまった。年数は3年後からが多かった。

閉会に際し、町田遭対委員長より「指導、遭対は登山部の中でも柱になっている、みなさんが日山協で執行業務を代表でやっているだけです。皆さんの協力をいただきたい。」と挨拶。

次いで、蛭田指導委員長より「この面々で今後とも日山協が元気を出して旗を振っていく。また、楽しく山に行きましょう。」と挨拶があった。

(文責: 指導委員会 野村善弥)

快適なロッジに泊まりながら、タスマニア島を北から南へ縦断

**11名様限定** **タスマニア島**  
**オーバーランド・トラック 10日間**

発着地 **東京**

旅行代金 **720,000円**

出発日 **12/8(土)・1/25(金)・2/8(金)・3/1(金)**

※燃油サーチャージは、旅行代金に含まれております。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

**ALPINE ツアー サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com <http://www.alpine-tour.com>



## 2018 UAAA理事会報告

日時：2018年5月23日(水)

場所：カザフスタン アロマトイ

日本からの参加者：八木原会長、小野寺(記録)

カザフスタンと言う地名は知る人ぞ知る、ということであろうか、中央アジアに位置し、近くにはハンテングリやボベータなどの山を有する天山山脈が走っている。この山脈は市内からもよく見える。また、旧ソ連などで打ち上げた宇宙ステーションからの飛行士の落下地点にもなっている。親日国であり、ビザは短期間なら不要、市内には車が多く走っており渋滞もしばしば、3割は日本車である。また船のエンジンなどにも日本製が多く使用されている。

今回の参加は9か国13団体であった。

参加団体は1-KAF(Korean Alpine Federation), 2-CAC(Coran Alpine Club), 3-JMSCA(日本山岳・スポーツクライミング協会)、4-CTMA(Chinese Taipei Mountaineering Association), 5-CTAA(Chinese Taipei Alpine Association), 6-CHMCU(China HongKong Mountaineering & Climbing Union), 7-IMSCF(Iran Mountaineering & Sport Climbing Federation), 8-NMA(Nepal Mountaineering Association), 9-MCAMAC(Mongolian Climbing and Mountaineering Alpine Club), 10-CAM(Club Alpine Mongolia), 11-KAC(Kyrgyzstan Alpine Club), Hostの12-MSCFRK(Mountaineering Sport Climbing Federation Republic of Kazakhstan), 13-KSC(Kazakhstan Sport Committee), /Almaty an Sport Committee, /Almaty Sport Committee and Almaty Travel Boardである。ただ、参加者は1団体で数人も出席している団体もあり、32名(会議代表は16名)に上った。

さて、会長国はKAFである。副会長国はネパール/NMA、イラン/IMSCF、中国/CMAとなっている。しかし、中国は欠席だった。会議はアジェンダに則って行われた。

開会に先立ち、物故者に対して黙とうを行った。

### 1. 開会

MSCFRKの前の会長で、今は事務局長をしているKazbek Valiyev氏の歓迎の言葉があり、InJeong Lee会長の挨拶、定足数、アジェンダの確認など通常通りの手順で行われた。

次に会員Federationで会長になられた方の紹介と表



集合写真

彰が行われた。CTMAのHank氏とNMAのSanta氏の2名である。Injeon Lee会長が2名を表彰した。

その後、3月にネパールで行われたUIAA理事会についてアジア地区選出の韓国のPae女史が欠席だったこともあり、小野寺に報告してほしい、という依頼があり、口頭であったが2,3のトピックスを入れて概要を発表した。どうも主にはヨーロッパ連合EUMAの情勢について話をしてほしいと思ったようだ。EUMAは今でも、結成はされたようだが、詳細が報告されていない。

次にネパールの第一副会長のDeebasがUIAA理事会について口火を切った。運営と事前連絡についての批判である。当日の運営そのものはUIAAが行っている。同時期にGAMCE(Global Adventure & Mountaineering Conference and Expo)が近くで開催されているが、理事会開催前に何度となくこのGAMCEの宣伝がメールで発信され、しかも理事会の一部の如き書き方になっていた。それに翻弄された人も多い。UIAA事務局まで片棒をかついでいる印象を受けた。概略以上の内容であった。Pae女史なども連絡は焦点がぼやけていたとも発言した。結果として本会議においてNMAの前会長の独走が批判された。今後についてもそのようなことの無いように望むとの見解が出されたが、NMAの責任も大きい。

### 2. 委員会報告

(1) 委員会と言っても副会長国が分担して委員長を行っている。特に委員がいるわけではない。ネパール/NMAが遠征、イラン/IMSCFが自然保護、中国/CMAはユースの担当になっている。CMAが欠席のため、前2者が報告を行った。イランの報告はダマバンド山の清掃登山、氷河保護、及びUIAAの自然保護アワードを目指しての動きなどが紹介された。ただペルシャ語が多いPowerPointでカザフスタンからそれでは分からない、というクレームがでた。ネパールは雪崩、地震から復帰しており、国として地域経済活性化に協力をお願いしたいとのこと。国内登山状況についても報告があった。

### 3. 各加盟団体の活動について

参加国の2017年～2018年の活動について、Power Pointを用いてや、口頭で発表があった。全体としてスポーツクライミングに関する動向が多い。日山協も特に最近の動向について説明したが、今までと違って敢えて登山に関するアイテム(海外登山とか、日本国内の山の紹介、ジュニア活動)を中心に紹介した。カザフスタンは岩登り競技会を行いたいとのことであった。後述する。

### 4. 財政レポート

台北/C T M AのHank氏から報告があった。会費納入について加盟リスト上には19か国が載っているが、せいぜい14か国の支払いが最大らしい。いまのところその中の2, 3か国に未払いがある。監査は香港/C H K M C UのFrederick氏が行った。問題なかったとのこと。

### 5. 遠征・競技会等

来年、2019年はU A A A創立25周年に当たる。それを記念して合同遠征を行いたいとのこと。発案はネパールである。カザフスタンからは岩登り競技会をやはり来年の4月から8月に行いたいとのこと。実際に翌日はその岩場を皆で見に行った。生憎当日の午後からは下が雨で上は雪、翌日は道路が一時不通になったが、午後になって回復した。しかし思いもかけない珍しいことの様で、雪の中を車で途中まで行き、後は歩きとなった。天山山脈の麓になるが、スキー場の上になる。常に周辺の国々と大会を行っているらしい。カザフスタンのKazbekの話によればスポーツクライミングについて、それはそれでよい、しかし天然の岩場の競技会を行いたいとのこと、出来れば日本からも参加してほしいとのことであった。来年の時期についてはネパールとカザフスタンが話し合っただけで決めることになった。

今年はレーニン峰の初登頂90年に当たる。日本からも是非人を送ってほしいとのこと。去年はせっかく送ってもレポートを書かなかつたり不心得の人がいた



会議の風景

りして遠慮していたが、今年は東京農大探検部の学生が早々に日山協を訪ねてきたりしているの、若い学生を送るとキルギスには伝えておいた。

### 6. コラボレーションなど

- (1) 日本の中村保氏が中心になって発行しているAsian Alpine E-newsについてはU A A AのHPとリンクすることで合意。
- (2) A F S C (アジアスポーツクライミング連盟) やA S M F (アジア山岳スキー連盟) ともコラボしたいとのこと、連絡はするとのこと。
- (3) ポカラの山岳博物館のU A A AコーナーにはN M A 経由で\$500 寄附、アジアビオレドールについても\$1000 拠出してスポンサーになっている。

### 7. 来年以降の会議予定

- (1) 2018年総会は10月にモンゴル・ウランバートルに決定。
- (2) 2019年理事会はC T M A、総会はキルギスも双方了承。
- (3) 2020年理事会は労山に打診予定、総会は香港は了承。
- (4) 2021年総会はネパールが手を挙げている。

### 8. 閉会

InJeong Lee 会長の挨拶の後、無事終了した。

(記 小野寺齊)



岩登り競技会を考えている岩場、右の3岩峰



ホテルから見える天山山脈の一部

## 平成30年度定時総会報告

6月10日(日)に渋谷フォーラムエイト(8階A会議室)で平成30年度定時総会が開催された。理事24名、監事3名、正会員(含む代理人)33名の計60名が出席。同席者は、顧問3名、専門委員会委員長6名、ガバナンス委員2名、顧問弁護士1名。

総会に先立ち八木原会長から「私はこのところ変節していると云われるが、自分では進化中だ、と思っている。諸規程の整備が進んだ。スポーツクライミングはオリンピックを控え、隆盛の一途を辿っているが、伝統的な登山が懸念される。手をこまねいている訳にはいかない。登山部が中心になってテコ入れしようとしている。皆さんからのアイデアがほしい。再来年は創立60周年を迎える。是非ご協力を頂きたい。」と挨拶。続いて、定款第16条に定めるところにより、八木原囃明会長が議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足を確認して、本会議の開会を宣言した。次いで、定款第20条第1項に基づき、議事録署名人として八木原囃明議長、蛭田伸一常務理事、山田雅昭正会員を選任して議案の審議に入った。

### 1. 議事

(1) 議案第1号 平成29年度事業報告について

小野寺事務局長が資料により議案説明を行った。

●議案第1号は、異議なく賛成57、反対0で承認。

(2) 議案第2号 平成29年度収支決算報告及び監事監査報告について

相良財政担当理事が資料により議案説明を行い、その後、内藤監事から監事監査報告及び監査所見の報告があった。

還付金の名目や流動資産の運用について質疑があった。

●議案第2号は、異議なく賛成57、反対0で承認。

(3) 理事の選任について

小野寺事務局長が資料により議案説明を行った。

●議案第3号は、理事候補者・谷口浩平氏が、異議なく賛成57、反対0で承認。

(4) 定款の変更について

合田常務理事が資料により議案説明を行った。

●議案第4号は、一部訂正の上、賛成57、反対0で承認。

(5) 規程類の改定について

合田常務理事が資料により、加盟団体規程と会員規程の総会承認が諮られた。

●議案第5号は、一部訂正の上、賛成57、反対0で承

認。

### 2. 報告

(1) 報告第1号 「来年度の理事見直し」検討について  
合田雄治郎常務理事が資料により説明を行った。

(2) 報告第2号 平成30年度事業計画及び予算について

小野寺事務局長が事業計画を、相良財政担当理事が予算について説明を行った。

(3) 報告第3号 平成29年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について

尾形山岳共済会会長が資料に基づき説明を行った。

その後、古屋寿隆監事より監査報告が報告された。

平成30年度日山協山岳共済会事業計画及び収支予算については口頭報告があり、資料は別途郵送することになった。

(4) 報告第4号 創立60周年記念事業募金について

尾形専務理事が資料に基づき説明を行った。

(5) 報告第5号 祝日「山の日」記念事業について

小野寺常務理事から資料に基づき報告があった。

(6) 報告第6号 オリンピックに向けての準備状況について

小日向常務理事より口頭にて報告があった。

(7) 報告第7号 2019年 I F S C 総会及び世界選手権について

村岡常務理事より資料に基づき報告があった。

(8) 報告第8号 第57回全日本登山大会・京都大会について

京都府岳連の四方会長から報告があった。

(9) 報告第9号 福井国体について

福井岳連の牧野会長から報告があった。

(10) 報告第10号 来年の全日本登山大会について

来年開催予定の岐阜岳連・佐藤能博氏から報告があった。

(11) 報告第11号 山梨県山岳連盟創立70周年記念シンポジウムについて

山梨岳連の秋山会長から山岳遭難防止のシンポジウムの案内があった。

10. その他

平山副会長からの公認大会について説明。

以上、15時10分閉会。

## 第2回理事会報告

平成30年定時総会終了後、同会場にて15時30分から理事会(第2回)が開催された。出席者は理事24名、監事3名の計27名。

定款第32条により、会長が議長を務め、議事録署名人を定款第34条により会長及び監事を指名して議事に入った。

### 1. 議事

【議案第1号】平成30年度第1回理事会議事録の承認について

小野寺事務局長から提案説明があった。

●議案第1号は、異議なく賛成24、反対0で承認。

【議案第2号】理事の管掌業務について

小野寺事務局長から提案説明があった。

提案内容を一部訂正し、各常務理事の管掌業務を確認及び訂正し、相良忠磨理事を常務理事にすることが諮られた。

●議案第2号は、賛成24、反対0で承認。

【議案第3号】正会員の入会承認について

小野寺事務局長から提案説明があった。

●飛田典男(大阪府山岳連盟会長)氏の入会が賛成24、反対0で承認。

【議案第4号】平成30年度補正予算における付帯決議について

小野寺事務局長から提案説明があった。

●議案第4号は、賛成24、反対0で承認。

【議案第5号】平成30年度第一次補正予算について

小野寺事務局長から提案説明があり、尾形専務理事、相良財政担当理事から補足説明があった。

●議案第5号は、賛成24、反対0で承認。

### 2. 報告

森理事から国体山岳競技規則改定について提案したいとの報告があった。

各専門委員会に存在する諸規程を次の常務理事会に上げて、委員会マター、常務理事会マター、理事会マターの切り分けを行うことにする。

### 3. 業務執行理事の執行報告

各業務執行理事からそれぞれ職務執行報告があった。

以上、17時10分に閉会を宣言して終了した。

平成29年度事業報告は次号に掲載致します。

## 平成29年(2017年)度収支決算報告 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

### 貸借対照表

(単位:円)

科目	当年度 (H30/3/31)	前年度 (H29/3/31)	差異
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預貯金・郵便振替	45,120,804	35,850,598	9,270,206
未収金	19,576,352	20,647,113	△1,070,761
前払費用	4,814,285	2,558,021	2,256,264
仮払金	0	1,050,000	△1,050,000
流動資産合計	69,511,441	60,105,732	9,405,709
2 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産定期預金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2)特定資産			
国民スポーツ登山振興基金	15,495,367	15,495,367	0
退職給付引当資産	3,594,098	1,836,240	1,757,858
特定資産合計	19,089,465	17,331,607	1,757,858
基本財産・特定資産合計	49,089,465	47,331,607	1,757,858
(3)その他固定資産			
機械器具	29,700	59,400	△29,700
什器備品	1	1	0
ソフトウェア	1,769,982	2,448,618	△678,636
電話加入権	43,989	43,989	0
その他固定資産合計	1,843,672	2,552,008	△708,336
固定資産合計	50,933,137	49,883,615	1,049,522
資産合計	120,444,578	109,989,347	10,455,231
II 負債の部			
1 流動負債			
未払費用	18,192,647	8,892,329	9,300,318
前受金	1,168,000	3,704,200	△2,536,200
預り金	1,767,780	1,019,775	748,005
未払消費税等	3,501,300	2,849,700	651,600
賞与引当金	2,020,000	1,440,276	579,724
流動負債合計	26,649,727	17,906,280	8,743,447
2 固定負債			
退職給付引当金	4,601,000	7,809,000	△3,208,000
固定負債合計	4,601,000	7,809,000	△3,208,000
負債合計	31,250,727	25,715,280	5,535,447
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	-30,000,000	-30,000,000	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	59,193,851	54,274,067	4,919,784
(うち特定資産への充当額)	-15,495,367	-15,495,367	0
正味財産合計	89,193,851	84,274,067	4,919,784
債及び正味財産合計	120,444,578	109,989,347	10,455,231

### 〈平成29年度協賛各社及び助成金法人等一覧〉

KDDI(株)、三井不動産(株)、住友商事(株)、オリエンタルバイオ(株)、日本航空(株)、久光製薬(株)、牛乳石鹸共進社(株)、キョウリン製薬ホールディングス(株)、八海醸造(株)、(株)ゴールドウイン、東商アソシエート(株)、三井住友海上火災保険(株)、(株)VOYAGE GROUP、(株)シンカ、(株)牛走運送(公財)日本オリンピック委員会、(独)日本スポーツ振興センター(スポーツ振興基金助成金、スポーツ振興くじ助成金)、日本山岳遺産基金(敬称略、順不同)





**60周年募金協力者  
ご芳名**

(6月30日現在、敬称略)  
200口:田中文男、40口:八木原  
罔明、30口:坂口三郎、10口:京  
都府山岳連盟、2口:小比賀利  
雄、本郷利夫、柳原政一、平井忠、  
大久保孟  
(総額:290口・1,450,000円)

**【お詫びと訂正】**

本誌6月号(No.591)2頁の森秋彩  
選手の写真キャプションが中村真緒  
選手となっております。お詫びし  
て訂正します。

**表紙のことば**

カンチェンジュンガの北方約20kmに聳え  
るジョンサン・ピーク(7,483m)は、ネパ  
ール、中国・チベット、インド・シッキムの三  
国の境を成している。別名ジョンソン・ピー  
クとも云われるが、人名の「ジョンソン」で  
はない。ネパールでは「ギンサン」と呼ばれ  
ている。チベット語でジョンは「城塞」を意  
味する。サンは「切り立った岩壁」の意で、  
即ち「切り立った岩壁に囲まれた城塞のよ  
うな峰」となる。確かに西ランポ氷河を挟  
んでスフィンクス辺りから眺めると、まさ  
しくそのような山容に見える。初登頂は、  
1930年6月、G.O.ディーレンフルトの率い  
る国際隊によって成された。

(写真撮影者・尾形好雄)

**編集後記**

6月2日～3日にエスフォルタアリー  
ナ八王子において、ボルダリングワールド  
カップ2018 in 八王子大会が、参加国27、  
選手159人、運営スタッフ261人により開  
催された。競技の魅せるかに取り組んで内  
外の評判も良く、本紙詳細の通りです。又、  
QRコードにより大会イメージが閲覧出  
来る様な対応をいただき、広報の今後の課  
題を提供していただいたと思っています。  
(広報担当 水島彰治)

**一般財団法人 日本トレイルランニング協会**

〒252-0184

神奈川県相模原市緑区小淵1545-1

☎042-687-4011 FAX 042-687-3980

E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

**NPO法人 北丹沢山岳センター**

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・道志村トレイルレース実行委員会
- ・八重山トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- ・上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

**登山月報 第592号**

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 平成30年7月15日  
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
岸記念体育会館内  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-3481-2396  
FAX 03-3481-2395

山岳  
雑誌

**岳人**

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



**8月号**  
発売中

**【特集】日本の山⑩ 後立山**

★モンベルのウェブサイト  
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

**年間購読がおすすすめです。**

**購読割引 送料無料 限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊

年間購読なら12冊

~~9,780円~~

**→8,965円**

1年間で815円  
1冊分無料!

**年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!**

**岳人フォールディング  
スプーク**  
フィールドで活躍する  
スプーン&フォーク。  
岳人オリジナル  
ケース付き。  
※色はお選び  
いただけません



▲折りたたみ時

さらに

はじめて  
お申し込みの方に



岳人ピンバッジ

ご継続の方に



オリジナルBOX

年間購読  
お申し込み方法

●ウェブサイトで  
<http://www.gakujin.jp/>

●全国のモンベルストアで  
<http://store.montbell.jp/>

お問い合わせ ☎0120-982-682 TEL 06-6538-5797  
(モンベルポスト) ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。  
あしたを作る。  
三井住友海上

損害保険と聞いて、  
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ることを繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう  
三井住友海上  
時空保険  
探査部  
Space-time Insurance  
Exploration Department

人類にとっての  
損害保険の  
必要性を調査。

時空を超える  
ゲート。

社員証を  
かざせば  
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



# あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

**日山協 山岳共済会** 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396

FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
公益社団法人 日本山岳・スポーツライミング協会  
携帯サイト ([www.jma-sangaku.or.jp/mobile/](http://www.jma-sangaku.or.jp/mobile/))



WEBからもお申込みいただけます ( [www.sangakukyousai.com](http://www.sangakukyousai.com) )